



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

ゴミ拾い！スポーツを超えた祭典

W 杯ゴミ拾い「ちょんまげ隊長」、500人からアリガトウ

【2022年12月2日】



サッカー日本代表をちょんまげ姿で応援し、「ちょんまげ隊長」の愛称で知られる名物サポーターが、W 杯カタール大会にも姿を見せている。この男性は、千葉県柏市在住で、松戸市で靴屋を営む角田寛和さん（60）。

11月23日、日本が強豪ドイツを2-1で下した歴史的な一戦。試合後、ちょんまげ姿のまま会場を後にしようとする角田さんを、大勢の大会ボランティアが「帰るな」と制止した。

大会ボランティアは集まり続け、約500人に達した。メガホンを持つ男性が英語で話しかけてきた。「ここにいる日本人サポーターに感謝を伝えたい」。そして、日本語で「ありがとうございました」と続けた。

後日、角田さんたち約30人は大会組織委員会から表彰された。表彰されたのは、角田さんがまとめ役を務める「トモにカタールへ」のメンバーら。角田さんは東日本大震災を機にボランティア活動を始め、JリーグやW杯に被災地の子どもを招く活動を続けており、「トモにカタールへ」もその一環だった。カタールには、寄付金約400万円をもとに、宮城県女川町、愛媛県宇和島市、熊本県球磨村など五つの被災地から計8人の高校生、大学生を招待した。現地の大学生とも交流。8人は日本のドイツ戦、コスタリカ戦を観戦して帰国した。

朝日新聞デジタルより



ちょんまげ隊長ことツンさん着用のユニフォーム KOMABA もその活動を支援しています！



カタールW杯の大会ボランティアから感謝の意を伝えられ、スタッフ500人らとともに写真に納まった

12月6日のクロアチア戦で惜しくもW杯を敗退してしまった日本代表だが、その裏で活躍する日本人サポーターたちの存在が今世界で注目されています。今回の活動の中心であった「ちょんまげ隊長」のツンさんはカタールへの出発前にKOMABAで特別講演会を実施してくれた方です。W杯をただのスポーツの大会とするのではなく、被災地の子どもたちの支援活動につなげたり、現地の学生たちとの交流、清掃活動を通じてボランティアの意識を高めたりとスポーツを超えた存在としています。日本代表としてのW杯はベスト16で終わってしまいましたが、日本のサポーターたちの姿に影響を受け徐々に他国のサポーターたちも協力してゴミ拾いをしてくれています。W杯を通じて世界と関わり、社会がより良い方向へと進んでいくように皆さんとともに私自身も行動していきたいです。(四本)